

1. 初めての出産	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ立場の人と知り合うきっかけがわからない ・ 育て方の不安への相談窓口がわかっているか ・ 行政の相談、窓口の煩雑と多さ ・ 何もわからない不安と経験不足 ・ 出産仲間はどこでつくるのか、行き場がない ・ 情報が手に入れない、または多すぎる
キーワード	<p>同じ立場 きっかけ 不安 相談窓口 何もわからない 経験不足 仲間 行き場 情報多い</p>
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・ こんにちは赤ちゃん訪問 ・ さんさんサポート ・ 子育てサロン（区内 60 か所） ・ 区の子育て応援ブックなど ・ 母親学級、プレママ・プレパパ講座 ・ マタニティヨガ ・ おでかけひろば ・ 地域子育て支援コーディネータ
提案	<ul style="list-style-type: none"> ● わからないことがわからない→つながる場を作る ● 地域とつながる意識をもってもらう ● お産を考える会を企画 ● 子育てのイメージを持つ企画 ● 暮らし全体を考える ● 命の大切さ→地域の財産を使って！ ● 妊娠SOSを活用する

<p>2. 第二子出産</p>	
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上の子の世話が大変 ・ 二人目だから慣れているのではないかという目、大切にされない ・ 両親も年を取って預けにくくなっている ・ 一時預かりが使えない ・ サポートの継続が難しい ・ 交流できる場がない（兄弟の年の差）
<p>資源</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一時預かり ・ 身内、友達、夫、まわりの人 ・ 地域子育て支援コーディネータ ・ ショートステイ ・ 育児手当 ・ ママ友
<p>キーワード</p>	<p>知っているの不安 上の子の世話 慣れていると思われる 大切にされない 祖父母も高齢 経済的ゆとり 上の子の（心の）ケア 父親の意識</p>
<p>提案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 上の子のご飯の提供（夕食） 上の子をどうするかが重要なポイント → ご飯（ランチか夕飯）の提供 ● お互いに預けあう状況をつくる →（ひろば）場所（きっかけ作り） ・ きっかけがないと預け合いが難しい → ひろばのネイルのときにお母さん同士で子どものあずけあいの状況をつくる → 個人的な預け合いもできる → いざというときの預け合い ・ 予防的に預けあう環境をつくっておく ・ 「地域の常連さん」で預けられる場所をもつ → ひろば？ ● 地域の中の常連さんを作る ● 地域の仲間づくり、子育てサポート力のエンパワーメント

<p>3. 多胎</p>	
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不安が大きい ・ 手助け、支援をどこで探せるかわからない ・ 多胎同士の知り合う機会を見つけづらい ・ 多胎で知り合う場が少ない ・ 2セットずついるなど準備が大変、経済的問題 ・ 労力が倍であること不安が大きい ・ 母体への負担など、母子ともに健康への心配 ・ 労力も倍で余裕がない ・ 情報提供はあるが、多胎に特化した制度はなく、あまり資源はないのでは ・ 双子への支援が少ない
<p>資源</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康づくり課や児童館など、地域の多胎自主グループでの交流 ・ さんさんサポート（2人分もらえる） ・ 保育園の指数がアップする
<p>キーワード</p>	<p>不安 手助け 経済的問題 健康</p>
<p>提案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 双子サークル（地域による）に参加する ● さんさんサポート（6枚）を使う ● 多胎での妊婦はわかりにくい → マタニティマークを多胎バージョンにする → さらに優先的に電車の席もゆずってもらえる？ ● 多胎だと優遇されるお店を探す ● 多胎と地域をつなげる双子コンシェルジェがあるといい ● 子育てアプリの【双子】検索ワードでの情報を集めておく → 双子だから二子玉で？ ● 双子パパの産前教室を開催（パパの協力が必要）

4. 転入	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない状況（頼れる人がいない、行き場がない） ・手続き的なこと、体力的なことが心配 ・地理にうとい（病院など） ・予防接種は住民票から接種時期に送られるが、時期を越して転入した場合には受け損ねることもある ・転入した時に、妊婦と伝えないと母子保健バックがもらえない
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・行政からもらえる世田谷区のガイド ・母親学級の案内 ・セルフケア講座チラシ ・ひろば一覧
提案	<ul style="list-style-type: none"> ・転入時のチェック（広報、看板など） ・妊婦健診のチケットの制度化（タイムリーに役立つのかは疑問） ・産院に地域情報 ・子育てアプリはプレママ専用もつくる ・転入手続き用紙に妊婦かどうかチェックできる項目がある ・産院に地域情報を置く

5.妊娠前・妊娠中	
提案	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんを大事にする機会を増やす ・「子育てって楽しい」と伝える ・高校生の時から「赤ちゃんのいる暮らし」の教育 ・赤ちゃんのいるところのツアーを企画 ・体験者の話を聞ける場をつくる ・ひろばで産前ケア ・ひろば一覧の活用
全体を通じて	
	<ul style="list-style-type: none"> ・多胎への特別な支援、制度はできているわけではないが、地域で見守るといい ・地域で安心して育っていけることが大事 ・保健師が訪問しているからハイリスクだと思われたくない ・地域づくりから保健師の仕事と思っている、地域の人の手を借りながら取り組みたい

第3回区民版子ども子育て会議
「世田谷版ネウボラ、切れ目のない支援」

2016-07-21